

刈谷市

歴史の小径

鎌倉街道周辺（東境・西境）



祖母神社

文化財は私たち祖先のすぐれた文化活動の所産であり、そのひとつひとつがその土地の歴史と風土の中で育てられたものです。

先人の手によって、長い年月のあいだ大切に守られてきた偉大な文化的遺産を正しく理解し、次の世代のためにその保存と活用に関心を持ちましょう。

刈谷市教育委員会

生涯学習部文化振興課

〒448-8501 刈谷市東陽町1-1
TEL 0566-62-1037

鎌倉街道周辺 歴史の小径

鎌倉街道とは、鎌倉を中心として放射状に走る主要な道筋で、鎌倉幕府開設以来、各地から「鎌倉へ向かう」中世および近世古道の呼称である。

江戸時代になると、東海道の整備によって次第にその役割を終え消えていった。刈谷付近では、尾崎村（現安城市）から里村（同）に入り、八橋村（現知立市）、駒場村（現豊田市）、東境村（現刈谷市）、西境村（同）を通り境川を越えて行くこととされるが、詳細なことはわかっていない。

①酒井神社

祭神は豊宇賀能売神（とよがのめのかみ）・誉田別命（ほんだのわけのみこと）、末社に山神社・萩之宮・津島社がある。酒井神社の北側を通る鎌倉街道は境川を渡って尾張国大久手（豊明市）に通じていた。徳川家重臣「酒井」氏の発祥の地とも言い伝えもあるが定かではない。

②永福寺

大宝山と号し、曹洞宗の寺で、文亀2年（1502）の創建といわれる。

天保年間に寺の東側の溝から出土した道祖神と、池大雅が書いたという木額（秋葉殿）がある（ともに市指定文化財）。他から移されたという庚申塚・万造塚の石碑もある。

③観音寺

創立は不明。「申堂」または「庚申堂」と呼ばれていた。以前は永福寺の門前にあったが、現在地に移転した。本尊は十一面観世音菩薩。この本尊は秘仏で、庚申堂には明治19年頃第7中学区第6番小学境学校が置かれた。本堂に池大雅の書による「大悲閣」の木額（市指定文化財）が掲げられている。

④長善寺

浄土宗西山禅林寺派。永正16年（1519）攝智立公が祐福寺の近くに1宇を建立。その後寛永の頃（1624～1644）、境川の東に移転し、さらに延享2年（1745）現在地に移築した。末世末法の虚偽と罪惡に汚れ果てた現世を厭い、弥陀の浄土に永遠の生命を求めて入水往生を遂げた4人の尼僧を供養するために建てられた「入水往生供養碑」の石碑がある。

⑤岩ヶ池

大池とも呼ばれる。昔この池から1つの岩が掘り出され、それが浅間菩薩の像に似ていたので岩ヶ池と呼ばれたといわれる。また、池の水は尽きることがな



東境村は、旗本本多知行所（のち西端藩）と刈谷藩の相給（1つの村を2人以上の領主が支配すること）で、郷蔵も2カ所あり、旧公民館の所に本多知行所分、その筋向かいに刈谷藩の別々の郷蔵があった。

⑫高札場

旗本本多知行所（のち西端藩）の郷蔵（旧公民館の所）前に高札を掲げる小さな建物があり、ここに高札が掲げられていた。昭和34年の伊勢湾台風の際に壊れてしまった。ここに掲げられていたとされる「切支丹禁制高札」（市指定文化財）は、現在刈谷市郷土資料館に保管されている。

⑬東境のお地藏さん

近所の人々が花を供えたり掃除をしているが由来は不明。今は地藏盆の8月24日に永願寺の住職が盆供養をしている。

○草野池（新池・笹池ともいう）

元和7年（1621）から、藩の費用で灌漑用水池として造成したと伝えられる。西境村絵図には「御溜池」を中心として、北側に「古溜池」、南側に「今池」の三カ所の溜池を記載している。古溜池・今池は耕地や水田になったと伝えられる。豊かな水を湛える池は渡り鳥がたくさん飛来し、冬には真鴨・小白鳥など多くの鳥が見られる。草野池には念仏行者として知られる聖空準教上人の入水往生の話もある。

○兒塚（ちごづか）

松平親氏がこの地に移り住み、ここの役人である与右衛門の娘婿に入り、男の子が生まれるが、親氏は松平村の松平信重の娘婿を迎えられることになったため、男の子を連れて松平村に移った。与右衛門の娘は乳飲み子との別れを悲しみ塚を築いたといわれる。

○丸山城

境古城、境村古城、人夫城ともいわれる。平地の中に独立した緩傾斜の小丘で、楕円形の形をしている。新田義貞の臣酒井与右衛門が居城したといわれる。

○間野四郎池（間代池とも）

間野四郎という地名もある。東境に伝唱される『東境音頭』の中に「丸い山と申すなら 佐藤四郎兵衛城の跡」とあり、また、「間（真）野四郎兵衛城の跡」と歌う人もあるという。間野四郎兵衛の名前から、何か関連があるかと想像もできるが、2人とも実在した人物かどうかは不明である。

※鎌倉街道は当時のルートを限定できません。

ったため、村民を加護するということから加護池とも呼ばれた。秋から春にかけて雁・鴨など多くの水鳥が飛来する。

⑥地藏群

むかし、はやり病の供養塚として5体の地藏さんが安置されていた。戦後も「虫おくり」や「お日待ち」の行事が続けられていたが自然消滅した。昭和36～38年の土地改良によって行き先のない「お地藏さん」が、この場所に集められている。

⑦祖母神社

東境村の加藤四郎左衛門が久安3年（1147）家に帰る途中白髪の老婆が現れ、「私は祖母嶽明神である。永くこの村を守ろう」と言って軸を渡した。軸を開いてみると、不動明王の尊像だったので、これを御神体として、その地を御社として、祖母大神と崇めたといわれる。嘉吉2年（1442）創立という説もある。祭神は伊耶那美命（いざなみのみこと）。狛犬（市指定文化財）がある。末社に、秋葉社、山神社、熱田社、御嶽社、白山社、稲荷社、浅間社がある。

鎌倉街道伝承地（市指定文化財）として境内に鎌倉街道の跡と伝えられる道が残されている。

⑧来岸寺

慶安3年（1650）多くの信仰を得ていた仏堂を改築して西山禅林寺派の来岸寺が創立された。名古屋西光院の了順を迎えて初代とした。明治6年（1873）西境村・東境村を学区として第6番小学校を来岸寺に創立されたが、明治7年西境村の長善寺へ移転した。大正2年（1913）元鎌倉街道沿いにあった金毘羅堂（年代不明）が境内に移築された。

⑨永源寺

大同3年（808）円澄の開基で白山社内に創建したと伝えられる。治承3年（1179）兵火のため焼失するが、その後応永年間（1394～1428）松平太郎左衛門により再建される。嘉吉元年（1441）天台宗から曹洞宗に改宗された。享保8年（1723）岩ヶ池の氾濫により水害を受け現在地に移る。

⑩泉正寺

正平7年（1352）俣野入道により、時宗の道場が創立された。天正年間（1573～1592）時宗から真宗大谷派に改宗する。本尊は阿弥陀如来立像。刈谷藩士浜田与四郎が書いた「鎌倉街道之図」が所蔵されている。

⑪郷蔵

郷蔵は、江戸時代の米穀貯蔵用の倉庫のことで、年貢米の一時収納や備荒用の米穀類の貯蔵のために、設けられた建物であった。藩の所有であるが、村として管理に当たった。「御倉」「郷御倉」とも呼ばれた。

